

第20回 野沢温泉スキー合宿2017

11期 幹事 青柳 健二

・実施日 2017年2月17日～20日

・参加者 ④佐藤 ⑦村田 ⑧野村孝 ⑨伊藤、保田、山中、吉田 ⑩青柳、井上史・和、片田、上村 ⑫野村益、宮島 ⑬大島、辰野、柴田、山西久・潤 ⑮上馬、舟田 ⑯堤 ⑰松下 (23名)

今回は、本スキー合宿が1998年に開催してから第20回目の合宿であり、「第20回記念合宿」として大々的にアピールして参加者を募りました。結果、直前に0期 田村さんが体調不良により不参加となったものの、歴代最多の23名が野沢に集い開催されました。初参加は、9期吉田洋次郎さん、13期大島良治さん、18期堤善朋さんの3名。一部の方は都合により18日夜の第20回記念式典には参加されませんでした。記念式典は18名の参加を得て盛況に行うことができました。

急変する天気の中でも、皆さん体力に合わせて自在にスキーを楽しまれ、怪我もなく無事に終わることが出来ました。お忙しい中を参加され、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

【スキーのこと】

私は、17日(金)～20日(月)で参加し、4日間スキーをしました。まずその状況を報告しましょう。

2月17日(金) 八王子の山中さん同伴で、9時40分に飯山駅着。新幹線で来た村田さんを伴い10時過ぎに「ふるさと」に着くと、富山から車で来ていた井上史三・和子夫妻に迎えられました。その口から「長坂ゴンドラが強風の為動いていない」とのショッキングな発言。昨日から入っている山西さん夫妻は、日影ゴンドラで登って上で滑っているとの事。12時からの1.5日券で滑ることとして、新幹線で来た伊藤さん・Y野村さんと上田の宮島さんに加え、12時前に宿を出てゲレンデに向かった。

冷たい雨が降り出す。日影ゴンドラに乗り上の平まで登って、山西さん夫妻と再会する。やまび

こ方面に行くリフトが動いていないので、パラダイスゲレンデを滑ることとする。風はそう強くはなかったが雨が舞うなか、2回程すべりゲレンデ内のレストランで昼食とする。雨を含んだ斜面は重く、いつもなら快適にスピードに乗って滑れる斜面だが脚にくる。レストランを出ると雨が強くなってきた。

まあ、久しぶりのスキーで滑る感触を得たことを良しとして、チャレンジコースから下ることとする。リフトを乗り継ぎ、3時頃には宿に戻った。新調したウェアが雨でビショリ濡れていた。宿に頼み込み、甘酒を出してもらって疲れを癒した。

2月18日(土) 昨日の雨は雪に変わり、車の上には新雪が10cm程積もっていた。

昨日のメンバーに上村さんを加えて長坂ゴンドラを登りやまびこエリアに出ると、そこは真っ白な霧に覆われていた。上のリフトが全く見えない。これでは上はダメと判断し湯の峰ゲレンデで滑ることとする。視界は20mから30m程で、ゲレンデの斜面でコースを探りながらの滑走。それでも、新雪をならしたコースは滑り易く、少しずつ調子が上がってきた。二人乗りリフトだが、久しぶりに一緒に滑る仲間とのリフト上の会話が楽しい。そのうちに、だんだん視界が晴れてきた。11時頃には、青空が見えるほどに回復。早めに昼食をとろうと中間駅からゴングラに乗り、上の平ロッジに向かった。

ロッジで昼食をとっている間に、佐藤さん・野村さん・上馬さん、松下さん・堤さん、片田さんなど仲間が集まってくる。



一年ぶりの回合で、この瞬間が嬉しい。予定より一日前に帰ることになった山西さんと別れ、12時半過ぎにロッジを出てやまびこゲレンデに向

かった。天気は、うす曇り視界は良好で絶好の条件となった。毛無山山頂まで登ってやまびこAコースを滑る。この日は、土曜日で多数のスキーヤー・ボーダーが滑っており、ゲレンデは柔らかいコブが連なり、私の得意な快適スピード滑降が難しい環境となっていた。転ばないように慎重に滑る。井上さん達とやまびこAコースを滑り急斜面上で一息入れて、ふと上を見ると、そこに赤いウェアと黒ヘルメットの保田さんが立っていた。こんな形で会えるのだから、ビックリである。

この日帰る井上夫妻を見送り、2時半丁度に今日来たグループとレストハウスやまびこで合流、一階の喫茶フロアで一休みして、それぞれが体調にあったコースで宿に戻った。私は、片田さんとスカイラインを滑って3時半頃に無事滑り終えることが出来た。宿の自家製甘酒を2杯飲んで、疲れを癒した。

2月19日(日) 朝起きると軽い雪が舞っていたが、朝食を済ます頃には止み、スキー日和に。

この日は湯の峰ゲレンデで10時半からビデオ撮影会、保田さんがゲレンデの緩斜面でビデオを構えて、一人ずつビデオ撮影を行う。私も二回目からデジカメの連写機能で撮影に挑んだ。ただし、ピンボケ写真の連続となってしまった。滑る方と撮る方の技量がマッチしないとスキー滑降の撮影は難しいのである。このゲレンデには、休憩やトイレを使う食堂が無くなってしまったので、頃合いを見て撮影会は終わりにし、水無ゲレンデを滑って早めの昼食とする。もう少し写真を撮るといふY野村さん、国展の準備がある村田さんと別れ、昨日と同じ上の平ロッジに入った。この時のメンバーはO野村さん・保田さん・伊藤さん・上村さん・堤さん・私の6名。少しずつメンバーが減っていくのが寂しい。

昼食をとって外に出ると快晴で一面青空が広がっていた。勇んでやまびこゲレンデに向かう。リフト上からは雪を薄く被ったブナの樹がキラキラと輝き素晴らしい景色が広がっていた。山頂に出て、周りの景色を眺めて振り返ると、そこに湯の峰ではぐれた佐藤さん・辰野さん・上馬さん・松下さんが立っていた。こんな偶然がまた楽しい。

「毛無山山頂 1650m」の標識を前に記念写真を撮る。やまびこAコースを滑り、リフト奥の喫茶室

で休憩する。この日もスキーヤーが多かったので、コースが荒れていて、滑りにくかった。その後は、それぞれが、この日の疲れ具合に合わせてコースを選んで宿に戻った。こんな上天気なら、昔はもっと滑ったものだが、疲れが溜まってきたのでスカイラインを降りて3時過ぎには宿に着いた。



2月20日(月) この日は午後から天気が崩れる予報。1.5日券を買っていたので、滑ろうと準備する。

スキー靴を履こうとしていた9時過ぎに、O野村さんから電話が入った。「長坂ゴンドラが動いていない。」と言う。17日と同じ事態にガックリする。もう少し早く電話をくれたら、保田さん達9期のミニ同期会と一緒に街歩きに変更出来たのに。日影ゴンドラまでいくと、長蛇の列が繋がっており、上に登るのは諦めて、下で滑ることにする。一人雨が降る中、日影ゲレンデを3回すべり、今年のテーマである「自然で楽なスキー」の動作確認に務めた。カンダハコースのリフトが動いているのに気が付き、東・西のコースを各一回滑った。雨で重い急斜面で転倒せず滑れたことにホットしスキーを終える事にする。

カンダハコースを降りて少し先に「日本スキー博物館」がある。スキー靴を履いたまま館内を見学できる博物館です。その見応えあるスキーコレクションを見学し、日影リフト横のレストランで昼食をとり、1時頃には宿に戻った。宿には、既に先行した辰野さん・佐藤さん達も戻っており、O野村さんによると「日影ゴンドラを出ると凄い強風で、滑るより押し戻されるようだった。早々に下におり、風の弱い柄沢ゲレンデを何回か滑ってスキーを終えた・・・」とのことでした。

思えば、1998年の第1回スキー合宿の初日、先のリした森川さんと私は、雨が降る様にガッカリ

して、その日はスキーをせずに、確かスキー博物館を見学したと思う。そして、第20回の今回も、最後の日には雨となり、再びスキー博物館を見学したのでした。二度目のスキー博物館、コレクションは充実し、外人スキーヤーが沢山見学していました。時は巡り、時代は移っているのですが、私の行いは余り変わっていないのか？

【夜の宴・第20回記念式典のこと】

2月17日(金)夜 前夜祭

参加11名 朝ぎり・夕ぎりの間

夕食の後、食堂で村田茶匠による茶会が開かれました。茶菓子は、宮島さん持参の小布施の栗羊羹。村田さんは、見事な手さばきで持参のお茶碗に濃茶を立てて下さり、美味しくいただきました。去年と同様に宿の方々にも立てて下さり、大変喜ばれました。

この日は、明日夜の記念式典に参加できない井上夫妻と山西夫妻の為に、第20回記念合宿の記念行事の概要を説明し、液晶テレビに記念写真集の一部を映写しました。井上さんの二人の娘さんが参加された第4回と、夫婦で参加された第5回の合宿の写真を眺め、史三氏の黒い頭髪の若々しい姿に、時の移ろいを感じいったのでした。二人の娘さんは、それぞれ結婚され、3男と男女の母になられています。本合宿20回の歴史の重みを感じさせる写真なのでした。



2月18日(土)夜 スキー合宿第20回記念式典 参加18名 食堂・大広間B

第20回記念合宿のメインイベントである記念式典を、夜6時から食堂で行いました。

まず、私が開会を宣言し、「スキー合宿 参加

者一覧(第1回～第20回)」「第20回記念行事 実行計画の概要」の2枚の資料を配布しました。

その資料により、この合宿が1998年(平成10年)に開始され今年で第20回となり、その間に延べ59名が参加(OB42名、家族・友人17名)している事実を説明。そして、記念行事の目的、実行委員会の委員紹介、記念行事の概要(記念式典、記念ビデオ・記念写真集・記念文集の作成)を説明しました。さらに、この行事を実行するに当たり、OB会からお祝い金・支援金として10万円を提供して頂いたこと、その支援と共に歴代参加者から寄付金を納付して頂きたい旨を説明して、全員の拍手で賛同を得ました。

そして、本来なら最長老の田村さんが音頭をとる場面ですが、その代役に最年少で弟子である松下さんの音頭で乾杯をし、夕食となりました。

食事の間に、OB会久富会長から届いた「金壹拾萬圓也」の目録を紹介させて頂きました。さらに不参加となった田村さんからのメッセージを紹介、そこにはワングルの始祖鳥として後輩に伝えたい遺言と、トランプ氏が米国の大統領に就任したおり、倭国大統領候補としての日本国の改革提言が書かれていたのです。松下さんが、「管見(日本再生の為に)」をロウロウと読み上げ、やんやの喝采を浴びました。

食事を終えた夜7時過ぎから、スキー合宿の功労者の表彰式を実施しました。

まず、全20回、その間素晴らしい宿を提供していただいた「ふるさと」の西方清ご夫妻に感謝状を授与し、記念品として木目調掛け時計を贈呈しました。この時計は、翌朝には食堂に掛けていただき、喜んでもらいました。この日の夕食時には、宿からお祝いとして「自家製どぶろく1升」が提供されました。美味しい料理と、優しい心遣いがあったのスキー合宿であり、今後も末永くお世話をお願いしたいものです。

そして、最多参加者の表彰式は、19回参加の準皆勤として上村さんと青柳に表彰状を授与、記念品が贈呈されました。上村さんは、転倒して眼鏡を壊したことがあり、野沢の「湯澤神社スキー安全御札」が、私には、第3回からの「ビデオシーン集DVD」が贈られました。また、今回不参加となった田村さんにも、参加18回で準皆勤として表彰状を授与、記念品には冬の健康の為に

「ヒートテック下着上下セット」を贈呈しました。これも松下さんに代理授与し、後日私が宅急便でお届けすることにしております。それぞれの受賞者には、記念の副賞として、保田さんが各人の名(迷)シーンをビデオから切り抜いて合成した写真を額に入れ贈呈して下さいました。有難うございました。



表彰式も無事終わり、場所を大広間に移して、8時前からお待ちかね夜の宴に入りました。

まず、佐藤さんが、1959年(昭和34年)のワングル山ノ坊スキー合宿の写真を披露して下さいました。

ゼッケンを付けた部員11名に指導員2名の記念写真と斜面で横スベリの練習をしているシーン。佐藤さんのスキーは、板のスキーに竹のストック。今から58年前の写真ですから、良く残っていました。スキー博物館が喜ぶ様な写真ですが、これがワングルスキーの原点でありましょう。

次に、保田さんが製作中の記念ビデオの予告編が映写されました。ビデオは3部構成で、第1部は各回の記録。第2部は、スキー合宿の魅力。第3部は、参加者の個人映像で出来ています。予告編として各部3項目程度が映写されました。第1部では、舟田さんが立ちあげたスキー合宿開始第1回の記録を「やまざと」の記事と写真で紹介。それに先立つこと27年前の1971年に、11期加藤さんが開いた野沢温泉OBスキー合宿が紹介されています。

私は、この時のスキー合宿にも参加しており、野沢温泉とワングルOB連中との集いの楽しさに魅了され、今に至っていることが確認できました。第三部の個人記録編では、田村さん、佐藤さん、村田さんの映像の後に、8期柴田さんの映像

が流されました。柴田さんは、第3回に妙高でのスキー大会参加後に奥様と飛び入りで参加され、以後第9回まで4回参加して下さいました。全日本マスターズスキー大会に県代表として参加される実力者で、最速のスキーヤーと言えましょう。私は、志賀高原でもご一緒させてもらいましたが、スキーにかける情熱は大変なものでした。惜しくも2007年2月18日に病気で亡くなりました。くしくも記念式典の当日が、10年目の命日なのでした。

同じ年の10月には、11期守内さんが亡くなっています。お二人のご冥福を心よりお祈りいたします。

この予告編、見応えがありますね。やはり動画の記録性・その時代と人を蘇らせる再現性は素晴らしい。ビデオの撮影は、第3回から加藤さんと第4回からは保田さんも加わり、殆どの回で行われており、20回分を整理・編集することで、野沢温泉スキー合宿全20回が記録されることとなります。完成が期待されます。

失われた命があれば、産まれる命もあります。実は片田さんの子女道子さんがスキー合宿直前に元気な赤ちゃんを出産されました。双子の男女とのこと。片田さんは、爺バカ振りを発揮しながら出産直後の母子の写真を見せてくれました。道子さんは、第4回から4回スキー合宿に参加されています。その時はピアノを学ぶ学生で、第8回の合宿では、宿のピアノでコンサートを開いてくれたのでした。このスキー合宿の歴史に、また新たな花が咲いた感があります。

その後、私が記念写真集として編集した写真の一部を映写しました。これは、記念ビデオ作成の原データでもあります。皆さんが撮ってくれた写真を年ごとに纏めて整理しました。全20回の写真アルバムとなります。

この時は、記念ビデオ(予告編)で紹介しなかった中期・後期の写真を映写。快晴の時の絶景写真や野沢のブナ林を撮って国展写真部門に初入選した村田さんの写真などを披露しました。

その続きで、私が現役時代の夏合宿や春山合宿・追出しコンパなどの写真を映写しました。

保田さんがリーダーであった夏合宿、一年生は加藤・今村(井上)・上村・私の4名。この4名は、このスキー合宿仲間となります。1年の夏合

宿は、その後の運命を左右する出会いの場だったので、それから50年が経つのですが、未だにかような親しいお付き合いを続けることになるのですから、嬉しいことです。でも、この時の皆の姿の若々しいこと・・・

ビデオや写真を見ながらワイワイガヤガヤやっていると、いつの間にか9時半を超えていました。皆さんお疲れの様子。田村御大が居れば、北の都など歌が出るところですが、明日の予定などを告げて、静かにお開きといたしました。

2月20日(日)夜 後夜祭

朝ぎり・夕ぎりの間

この日は、最後に残った、9期ミニ同期会組と金沢の辰野カー組と私の8名での宴。

この日、初めて野沢温泉に来て、スキーをせずに温泉とお酒とワングル仲間との語らいを楽しみに来た吉田さんのために、まずこの日に撮った絶景のゲレンデ風景を液晶テレビで映写しました。また昨日の「祝野沢温泉スキー合宿第20回」記念写真なども見てもらいながら、いつもながらのワイガヤ歓談。早朝の中尾の湯に行き、素早く裸になって、モウモウと湯煙が湧く湯舟に入ってみれば、そこには数10cm程の熱い湯しかなく、慌てて飛び出した・・・との佐藤さんの失敗談。この時は、湯舟を掃除した後のお湯張り中だったので、こんなとりとめもない話に盛り上がり、時は過ぎていきました。

第20回のスキー合宿は、雨に始まり、また雨

にて終わる急変する天気の中で、無事に終了することが出来ました。

ただ、私もしみじみ感じていることではありますが、開催20年数えて20周年とは、私達も確実に齢を重ねている・・・ということです。初回には、僅か一人であったシニア(60歳超)は、今や最年少者を含め全員がシニアとなっています。私も、今年で古希を迎えますが、雨による重い雪や、新雪が積もった後で荒れた柔らかいコブ斜面などでは、力と勢いだけでは滑りきる事が出来なくなりました。日ごろのトレーニング不足もありますが、すぐに疲れ足腰が張ってきます。

私は、あと10年はスキーをしたいと思い、未だ現役の先輩方を見て、そのつもりなのですが、体のケアとともに滑り方にも工夫が必要ではと思っています。今回は、古書店で偶然入手したスキー教本「自然で楽なスキーの勧め」に基づき重力を利用した自然で楽なスキーをマスターすべく試みたのですが、うまく成果は上がりませんでした。いろいろと思考錯誤をしながら、加齢に勝てるスキーを実行していきたいものです。

数年前なら、午後11時頃まで続いた夜の宴も、今回は3回とも10時前にはお開きになり、素直に床につきました。夕食前に、持ち寄ったお酒やワインで早く出来上がってしまうこともありましたが、これを見ても参加者の衰えを感じます。

皆さまも、自分なりに体のケアとスキーの滑り方を工夫することにより、末永くスキーを、スキー合宿を続けていきましょう。

